エレキ

昭和十六年三月十日印刷
昭和十六年三月十二日納本
名古屋市中區新榮町三丁目三番地
編輯發行人　後藤卸二
名古屋市中區南伊勢町二丁目
印刷所　名古屋市中區新榮町三丁目三番地
發行所　名古屋電氣學校出版部
電話千種局一七番
定價一部金五錢

名古屋電氣學校綱領

第一　吾等ハ各々其ノ本分ヲ守リ國體ノ精華ヲ發揚シ以テ皇國ノ大業ヲ翼賛シ奉ランコトヲ期ス

第二　吾等ハ學徒聖訓ノ御主旨ヲ奉戴シ智德ヲ修メ心身ヲ鍛ヘ一意奉公ノ誠ヲ致サンコトヲ期ス

第三　吾等ハ特ニ本校創立ノ本旨ニ鑑ミ科學精神ヲ體得シ人格技能ヲ磨キ以テ電氣報國ノ選士タランコトヲ期ス

名古屋電氣學校々歌

日比野寛先生作詞

一、日に月に進み行く世を先驅して
導く大炬地の果の隈々かけて
眩くも輝く電氣

二、日の本の電氣文明愛然と
明ら朗らに更に又世界の幸を
氣高くも廣むる力

三、中京に夙く起りて唯一つ
榮へ昌ゆる我が名古屋電氣學校
目出度くも尊きその名

(作曲は目下依囑中)

謹啓

紀元二千六百一年の芳歳を迎へ益御健闘の御事と奉賀候陳者本校校運以御蔭日増に隆昌に赴き關係者一同感激職域奉公に盡瘁致居候就而一昨年前校長急逝以後校長代理を以て校務を鞅掌致居候處今回左記の如く校長就任茲に體制を整備して電氣報國に邁進することと相成候時局下電氣教育の事亦一層の緊張を要するもの有之不肖等一同大政翼賛臣道實踐の聖旨の下に大方諸賢の御期待に應ふべく屹度覺悟致居候倍舊の御後援を懇願先は右御披露旁々御挨拶迄申述度如斯御座候　敬具

昭和十六年一月

名古屋電氣學校
校主　後藤卸二
校長　和田信次

報國電友團結成さる

我が名古屋電氣學校に於ては、今回上掲の如き綱領を公表すると同時に、其の趣旨に則り、率先他の中等校に先んじて左記の如き報國電友團を組織し、來る四月一日より之が實踐に入ることとなつた。

即ち、名古屋電氣學校報國電友團は、全校一致修練以て學徒たるの本分を發揚せんことを以て目的とするものである。

惟ふに現下非常時局に處し、大政に翼賛し奉り、職域奉公の誠を致さんには學徒聖訓の御趣旨を奉戴し、智德を勝くと共に心身を鍛練し、以て皇恩の萬分の一に報ひ奉らなければならぬ。

吾等は此處に其の決意を更に新にすると共に、今後の實踐窮行を誓ふ次第である。

名古屋電氣學校報國電友團規則

第一條　本團ハ名古屋電氣學校報國電友團ト稱ス

第二條　本團ハ本校綱領ニ則リ全校一致修練以テ學徒タルソ本分ヲ發揚センコトヲ目的トス

第三條　本團ハ本校職員生徒ヲ以テ組織ス

第四條　本團ニハ第一條ノ目的ヲ達センガタメ總務部練部國防科學部及學藝部ノ五部ヲ置ク

第五條　總務部ハ企畫統制指導經理並ニ各部連絡ニ當リ且銃後奉公集團勤勞作業寄宿舍訓練校内大會保健衛生等ノ事務ヲ掌ルト共ニ併セテ本校特設自衛團ヲ統轄ス

鍛練部ニハ左ノ班ヲ置ク

劍道卓球角力籠球庭球陸上競技健脚團體

國防部ニハ左ノ班ヲ置ク

射撃銃劍術國防競技滑空

科學部ニハ左ノ班ヲ置ク

工作寫眞試研究

學藝部ニハ左ノ班ヲ置ク

雜誌圖書音樂映畫輝論

第六條　本團ニ左ノ役員ヲ置ク

團長　一名　本團ヲ代表シ團務ヲ統理ス

副團長　二名　團長ヲ補佐シ團長不在ノ時代理ス

部長　五名　團長ノ命ヲ受ケ部務ヲ處理ス

班長　若干名　部長ヲ補佐シ班務ヲ處理ス

職員幹事　若干名　總務部ニ屬シ部務ニ參畫ス

生徒幹事　若干名　班ニ屬シ班長ノ指揮ヲ受ケ實務ニ從事ス

第七條　團長ハ校長副團長ハ豊夜間部々長部長班長幹事ハ職員生徒中ヨリ團長之ヲ任免ス

國民服で勢揃いした本校職員

設立者故藤先生銅像前に

第八條　職員タル役員ヲ以テ役員會ヲ組織ス役員會ハ團長之ヲ招集シ其ノ諮問ニ應シ規則ノ改廢豫算決算其他團長ニ於イテ重要ト認ムル事項ヲ審議ス

第九條　本團ノ經費ハ團費寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條　團員ハ入團ノ際金一圓入團金及毎月金四十錢ノ團費ヲ納入スルモノトス

但休學ノ者ハ之ヲ納ムルヲ要セス

第十一條　一旦納入シタル入團費ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返附セザルモノトス

第十二條　本校生徒ハ鍛練部又ハ國防部ノ何レカニ必ズ入部スベキモノトス

第十三條　本團ハ毎年三月末日ヲ以テ收支決算ヲナシ四月會報ニ之ヲ公示ス

附則

一、特設自衛團規則寄宿舍訓練ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

本團ハ昭和十六年四月十日ヲ以テ之ヲ施行ス

學校たより

黒田寛幸

⊙故後藤喬三郎先生の胸像は、風の日も雪の日も、毅然たる御威容で、建つてゐられる。職員も生徒も、校門の出入には必ず敬禮するこの胸像の前で、二三度記念撮影が行はれた。今年の新年拜賀式の日には、胸聞にいくつもの勲章を輝かして、禮服裝束爽たる英語担任の淺目先生を中にして、國民服擁ひの先生方が颯爽と胸像前に整列して、世紀の記念撮影をした。蓋し、新春冒頭の壮觀で、故校主も定めて微笑して居られたことと思ふ。

⊙壯大、瀟洒な新校舎が、校庭の北に増築せられた。乃で校舎全體を鳥瞰すると、双翼とか、鵬翼とか形容して見たくなる筈だ、白亞の校舎の上空を早春の風が眞白く羽動し、掲揚の日章旗が赤く ひるがへつてゐるのを仰ぐ時、若き學徒の胸にた湧る雄風といふやうなものが、若き學徒の感覚にも、ある人にも、なることが、汲み取られる。

見せたさは、この新興の藝術味に富んだ本校舎ではある。新築の校舎では、一新に新年拜賀式、紀元節祝賀式、等が行はれ又新愛知社の小池氏の興亞青年の覺悟なる講演も行はれた。

⊙校内新體制で目立つのは、在校生の新型の帽子であらう。形の想像のつかぬ人には、鐵道局員の帽子の如くなると説明するのが電氣學校型と断定するのが至當であらう。當初は電車の中で車掌と間違へられたといふ珍談もあつたが、今では實實剛健の象徴として、他校生徒と區別する有力な目標となつてゐる。

⊙興亞奉公日には鍛練行軍がある。昨年十月には天白方面、この二月には、降雪を衝いての雪中强行軍、目的地の猫ケ洞では、雪合戰の壯擧を敢行した。固より、辨當は日の丸、往復共に徒歩。

⊙學校自衛團も組織せられて、猛演習が續けられてゐる。小使室發火、南校舎延燒の想定下に、また、某飲食店全燒の想定下に團長以下各班の大活躍を演じたこともある。

⊙卓球名電校の名は御承知の如く全國的である。世間で知悉のことでもあり報告するとなると際限がないから、近況の一二を記して止める。昨年末には彦根高商に於ける近畿中等學校優勝大會に優勝旗獲得、本年初頭には第十六回全國卓球大會に於ける東郷旗獲得の快事がある。而かも餘裕綽々として、强敵なきを慨するの觀がある。最近、卓球道場が新設せられて尚武の神、熱田神宮が奉祀せられその道場の前には、三十六枚の畳敷が、大小の額縁に納められて、血と光榮の歴史を物語つてゐる。

⊙其の他材料は無盡蔵だが割愛して、以下諸先生方の寸影を紹介しておく。尚、記事が實間部に終始したが夜間部並に講師方の消息は筆硯を新にして後日出直すこととします。誌面の都合と御諒恕ありたい。

⊙先づ、校主後藤先生。最近親しく接したことのない人は、昨秋のある會合の席上で誰方かの口から出た、「この頃は益々父君に似てこられた」の一語によつて潔明朗な先生の俤を偲んで戴きたい。御歸還以來、十面十臂の大奮闘で、爲めに校内の面目一新、隆

々たる校運の進展振は、まあ、御らんの通り、と申上げておきます。和田先生。――昨年、城代家老の重荷を下された先生は、こんどは新校長の重任務を負はれた。そで、どないになるの。けつきよく、わんなじことやないかと嬉驚を揚げたら、漫才口調になつて了ふが、先生は人も知る温厚篤実の君子。多技多能な除技の一つが釣魚とあつて、先日も、先生御得意の獲物たるいふ一尾の鯉魚の拓本刷が職員室の掲示板に貼り出された、目方や、寸法は態と口を噤んで發表しないことにしますから、できるだけ大きな魚を頭に描いて見て下さい。風間先生。――照る日曇る日、十年一日の如く夜の導きに餘念のない先生は繁譯家としても尊い足跡を刻んで居られる。先生の繁譯書を熟讀した某大學教授が「眞面目で篤學な人」「譯はもとより、その往によつて學職の深いことが知られる」等、等稱揚してゐるのを見てもその一班は納得されよう。この智人的な先生が大のコーヒー黨だと聞くと、何たか微笑ましくなる。川島先生――農間部長の要職にある先生は、その悠揚迫らざる態度が日譯役の大山元帥を想ひ起させる、人間はよ「梅綻びて、僕は益元氣です」とお答へになるだらう。服部先生　教務主任鈞と算盤の巧い先生で、テニスもピンポンもおやりになる。江本先生。　頭の良いことで評判の先生は同窓會の生字引。近來、頗るお元氣です。河西先生。――敵獲聯盟の理事である先生は、怖い小父さんになつたり、映畫鑑賞の輪旋をして、嬉しい小父さんになつたりして居られる。杉本先生――後藤先生と共に職線に活躍された先生は、歸還後のハチ切れるやうな意氣を、教壇上に發揮して居られる。雪が降れば校主と共にスキーを、天氣が良ければシャツ一枚で卓球を、と、先生のスポーツ熱は沸騰点をはるかに凌駕してゐる。遠藤先生――お優しいのと、思ひやりの深いことで、時々生徒の感激の的となりになる。湯ノ目先生　既ゝ紹介せる如し。頗ゝ多藝の先生ゝ附加しておきます。河原先生――易と琴に御精通。琴の好敵手は和田先生とある。吉岡先生――同窓會諸賢と同席の折、その諸賢の一人と盛ん間運へられさうだつた程爾く寡默瞑想的な先生。前任、縣　高女時代の俤をその儘に保持していらつしやるらしい。法邑先生――經濟の井上先生と對して法律專攻の偉材。近頃倫理の研究に專念して居られる御容子。最近貯蓄債券の一等に當選されて、正に旭日昇天の御元氣です。鬼頭穆先生――白秋門下の歌人教育者。近什には接しないが、何れ、やますげの、みそひともじが本誌上を飾ることであらう、石打先生――茶道に精道、日本精神の探求にお忙しい。林先生――殆んど支那全土に轉職した歸還勇士で、その職場魂は体操教練科を通じて、全校生徒に浸透して行く。鈴木先生加藤先生――軍服姿の兩先生が、何れも御一族に名譽の戰死者を出して居られるのも奇縁である其の他――卓球の川上伊藤兩君歸還勇士の市川横江兩君何れも元氣旺盛の若人で、いづれはこの學校の花と咲かう。

○以上、甚だ無責任な申分ながら筆者の誤聞誤記なきを保ぜず。諸先生から抗議あらば、アッサリ訂正することを豫め斷りしておきます。

（二月十六日）

所感

農間部長　川島榮次郎

我カ國ガハ紘一宇ノ肇國ノ理想ヲ掲ゲテ東亞新秩序ノ建設ニ向ツテ干戈ヲ交ユルコト既ニ五年、愈々其聖業ノ容易ナラザルコトヲ覺ユルト同時ニ、之ヲ完遂スル爲メニハ國家國民ノ總力ヲ最高度發揮シ最強度ノ國防國家ノ体制ヲ確立セネバナラヌコトヲ痛感スルノデアリマス。是ニハ何ウシテモ國体ノ本義ニ則リ、萬民翼贊ノ皇道本然ノ姿ヲ完全ニ發揚スルコトガ肝メテ喫緊事トシマス。是レカ即チ新体制ヲ叫バレル所以デアルト思ヒマス。

此ノ秋ニ當リ吾々學徒ト雖モ苟モ生テ皇國ニ受ケタ臣子デアル以上、一切ノ私心ヲ去リ協心戮力熱誠以テ報國ノ精神ノ發揚ニ努メ、此光輝アル新時代ノ歩調ヲ其學業生活ニ融化セシメネバナリマセン。

世間デハ動モスルト新体制ヲ以テ人ノ創意工夫ヲ封ジテ盲從ヲ強ユルノヲ目的トスルモノデアルカノ樣ニ、甚シク誤解シテ居ル向ヤモアル樣デアルガ、凡ソ創意工夫ノナイ所ニハ活力ト云フモノナク、全ク消極退嬰ノ奴隷的氣分ニナリ、却テ國力ノ後退ヲ來スノデアリマス。新体制ハ鳥道ノ本義ニ則リ、絶對服從ノ訓練ヲ專ラトセル一面、巨道・國ノ實踐ガ要求スル創意工夫擴立力行ノ二事ヲ忘レテハナラナイト思フノデアリマス。

本校モ新体制ニ即應シマシテ、校主ハ校ノ整備ニ全力ヲ注ギ漸次其完備ニ近キツツアル一方、日來ヨリ、教訓的理念的ノ教育ノ型ヲ脱シテ、非常時教育即チ鍛練的實際的技術教育ニ移行スルト同時ニ、心身ノ練磨ト滅私奉氣技術報國ノ積極進取ノ精神ノ培養ニ一段ト努力ヲ致スコトニナリマシタノハ誠ニ當然事ト存ジル次第デアリマス。生徒ニ於テモ良ク其趣旨ヲ認識シテ、自ラ進ンテ此ノ新歩武ヲ踏マントスル樣ニナツタノハ、慶賀ニ堪ヘイ所デアリマス。

斯クテコソ聽テ興亞聖業ノ第一職ニ起チ、其修得スル電氣技術ヲ通シテ、工業報國ノ職士トシテ東亞共榮圏ノ繁榮幸福ト其擁護ノ礎石トナリ得ルモノト信ジマス

近時工業教育カ勃興シ、本校ニ於テモ其入學志望者、期ヲ新ニスル毎ニ激增スル盛況ニ在ルノハ、現下物的資源ガ漸ク乏ヲ人ノ胸ト沸ミテモ禁キナイ知的資源ニヨリ、補ハナケレバナラヌ折柄、邦家工業界ノ益メ慶賀スヘキコトデアリマスガ、徒ラニ工業界ノ殷振ト勃興ニ魅セラレテ、我國ノ現時ノ情勢ヲ察セズ叙上ノ熱誠ト決意ヲ有サナイデ、我校ニ其子弟ヲ送ル父兄ガアッタトレバ、大ニ反省シテ貰ヒタイト思フノデアリマス。聯カ所感ヲ述ベル次第デアリマス。

所感

夜間部長　風間太郎

職掌に不良少年はつきものだといふ。不良少年といふ冒瀆そのものが前の世界大戰の所産なのだが、事變以來、全國的にみて多少實少年間の風紀にある面白からぬ傾向があることは事實のやうである。現に最近、帝都某劇場を十重二十重に取卷いた群集が先を爭つて遂に若干の負傷者を出したといふ不祥事があつたが。その大半は學生であつた。尤もこの程度のことは單に團隊としての訓練の欠如を驚露したに過ぎず、その一人々々が「不良」であるとは言へないのも知れない。當局の調査によると殆ど全部が夜間中學、其他夜學の生徒であつたといふ。じて見れば不良どころではない。向上心に富んだ、篤學の紐もじい實年である。その日は紀元節であつた。たまの休日にいさかか「浩然の氣」を養はうとしたのたらう。不良なら學校へ行かない、從つて強いて休日に殺到する必要がない。

併し、不良の徒ならば問題はない。彼等が如何に相掌はうと彼等の前途がどうあらうと我々の知つたことでない、少くとも筆者の責任でない。が、夜學に通ふ「感心」な生徒さんが一列に並ぶことを知らず順番を待つことを知らないとあつては、これは面白くないことである。夜學に關係をもつ一人として、河向ふの火事とばかり、見てはゐられないことである。

由來、苦學力行の士、いはゆる立使傳中の人物にとかく狷狭小量の謗りが附纏ふやうに夜學の生徒は、眞面目ではある、熱心ではある、がその半面、多少個人主義的なものがありはしないか。他人を押退ける迄はなくとも他人の不幸を傍觀するものが、一部にありはしないか。筆者は今個人對社會の問題を論ずる余裕を持たないが、國家の保証なくして個人の富がないやうに社會の秩序なくして個人の幸福はない。榮達を希つて他を顧みることをしないものは、今日の社會機構を知らないのである。如何なる努力家であつても、かれ自身の「立身出世」のために社會があるのではない。健全なるヨリ好き一分子としてのみ社會は彼に期待し、榮達を許すのである。

幸ひにして筆者の關係する夜間部に於ては此の種の忌はしい傾向がない、寧ろ事變以來却つて協力一致の氣風が助長されたかの感さへあるが、一團他山の石として讀者の一顧を求めたのである。

名古屋電氣學校同窓會欄

就任の詞

聖戰第五年。興亞偉業、益其の巨歩を進め、一億國民、總力を擧げて、大政翼贊の誠を致す。曠古の盛觀、『み民吾れ、生ける甲斐あり』の感、轉た深きを覺ゆ。

這の秋に當り、吾が電氣學校に在りては、曩に校長推戴の事あり、次いで今回、屠蘇の關係にある同窓會より、該の會長たるの推戴を受く。根幹茲に位を得て、生々潑々の氣汪溢するの觀なくんばあらず。

母校が既に時局即應の體制を整備して、銃後の育英報國に邁進しつゝあるは周知の如し。同窓會亦之に呼應するかの如く、その活躍躍進に目ざましきものあり。昨秋菊花の佳節には、母校創立者の銅像除幕式あり。此の度は會長推戴結束を新にして更始の首途に上らんとす。而して斯の會や會員數無慮五千。日滿華三國に跨る大同窓會たり。而かもその前途の大發展を豫約せる殆んど必然的と誇稱して憚らざるべし。會長たる任の輕かざるを痛感すると共に他面欣快勇奮の念の禁ずる能はざるものあり。

各位の御援助と、一片の赤誠と、以て大方の期待に添ふことを得んか。

茲に一言、就任の詞を述ぶ。

會長　和田信次

本部記事

一、會長及副會長推戴

別項記載の如く、今般母校に於いては、元校長代理和田信次先生を、校長として申請中の處、昨年末認可發令された。よつて同窓會に於いては、常任理事及理事會の滿場一致の賛成を得て、和田信次先生を會長に、後藤鉀二先生及五十嵐眞一郎氏を副會長に推戴することになり、二月下旬推戴式を擧行した。

一、記念事業完結

母校創立滿二十五年を記念するため、去る昭和十二年春發起した記念事業は、幾何なくして日支事變に際會したるにも拘ら、多數會員の賛同を得て、三九二七圓の醵金を得、創設者後藤喬三郎先生の銅像を建設し、昨秋十一月三日明治節の佳辰を卜し、盛大なる除幕式を擧行した。

銅像は校舍南側花壇の西端に建設され、教職員及生徒は、登校及退出の際は常に禮拜して、故き先生の偉德を讃へてゐる。

一、本部新役員

現任本部役員氏名は左之通りである。

會長　和田信次
副會長　後藤鉀二
　　五十嵐眞一郎
理事長　神谷清次郎
副理事長　近藤初太郎
理事　江本巴
　　丹羽銀重
　　山田泰國
　　大矢覺明
　　坂梨健兒
　　鈴木巖
　　小笠原清彦
　　山田嘉郎
　　山地英次郎
　　澤田辰造
　　伊藤周次郎
　　加藤逸三
　　花井四郎藏
　　水野賢次
　　宮島鉦一
　　井戸明天
　　永井金一
　　鬼頭史城
　　西尾茂樹
　　大澤隆二
　　森山博愿
　　高井宮內
　　水野政尾
常議員
　　栗田廣造
　　井戸幸三
　　山岡眞一郎
　　宋松七之輔
　　石野常治
　　高須龜太郎
　　加藤勇吉
　　本多三郎
　　酒井梅吉
　　井戸明天
　　永井金一
　　磯部一郎
　　鬼頭史城
　　宵木重藏
　　大澤隆二
　　森山博愿
　　小野光
　　高井宮內
　　大島保
　　水野政尾

春期大會に就いて

母校に於いては、來る三月二十一日午前十時より第五十五回卒業式を擧行、二百五十餘名の新卒業生を送り出すことになつた。引續いて本會は午後一時半より若水町雙間部校舍に於いて新會員歓迎を兼ね春期大會を開催する。知友會員お誘合せの上奮つて御來會を希望する。